

令和3年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1. 学びがあり進路実現できる学校 ①習熟度別授業、AL型授業を充実し、授業力を向上する。 ②生徒が主体的、能動的に学ぶ姿勢を育成する。 ③3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。	* 習熟度別授業 * 個別添削指導 * AL型授業のための研修会	教務課 各教科	入学生の学力差が顕著になっている。習熟度別授業やAL型授業を行うとともに、タブレットなどのICT機器を活用した生徒の学力向上が求められている。	【満足度指標】 習熟度別授業やAL型授業の充実、タブレットなどのICT機器の活用により、教員の授業力が向上し、生徒の授業理解が深まっている。	タブレットなどのICT機器を活用した授業を受けることで授業理解が深まったと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート
	* 習熟度別学習課題 * 学習時間調査 * 個別面談	教務課 各学年 各教科	「予習－授業－復習」の学習サイクルを確立できない生徒が増加している。生徒の主体的な学習を支援し、自ら発展的に学力を高めようとする「学習リーダー」を育成することが必要である。	【成果指標】 学習課題と連動させた授業や個別指導により、生徒の学習意欲が高まり、発展的に思考する習慣が身についている。	自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート
	* 3年間を見通した指導計画の作成とPDCA実践 * 指導の記録 * 個別面談	進路指導課 各教科	生徒の進路希望は幅広く、個々の生徒に応じて進路指導や就職指導を行うとともに、進路実現に向けて早期から計画性を持たせた具体的な支援が必要である。	【努力指標】 これまでの指導を参考に、3年間を見通した授業改善を行うことができている。	3年次の進路実現を見通した授業等の改善ができたと考える教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合は改善策を検討する。	教員へのアンケート

令和3年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
2 人間力を向上できる学校 ①学校行事を通し、仲間を大切にし、他者を思いやる心を育成する。	* チャレンジウォーク * 文化祭 * 体育祭 * 球技大会	生徒会課	円滑なコミュニケーションを苦手とする生徒も多く、生徒間で良好な人間関係を築いていくことができるような教員による支援が必要である。	【成果指標】 いじめ未然防止の観点を踏まえて、生徒が仲間を大切にし、他者を思いやりながら各種行事に協働して参加している。	学校行事への取組を通し、思いやりをもって他者と協働することができたとする生徒の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート
	* 部活動 * ボランティア活動	生徒会課	課外活動において、教師主導の場面が多い。生徒が主体的・能動的に活動できるような教員による支援の工夫や機会設定が必要である。	【成果指標】 部活動などの課外活動において、生徒が主体的・能動的に活動できている。	部活動やボランティアなどの課外活動にすすんで取り組み、自ら考え行動しその活動に貢献することができたとする生徒の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート
	* 全校挨拶運動 * 登校指導 * みだしなみ指導	生徒指導課 生徒会課	生徒会与PTAの連携による取組により、地域連携の基礎である挨拶は身につけてきている。その一方、生徒自らが規範意識を養い、その自律性を高めることが課題といえる。	【成果指標】 生徒一人ひとりが、「自律的な生活」を心掛けている。	身だしなみがしっかりとした生徒の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合は改善策を検討する。	身だしなみ指導の記録

令和3年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
3 地域と共に成長できる学校 ①小中学校等との協働研究事業を推進する。	* 地域連携の協議会 * 授業公開と授業参観 * 研究授業と研究協議会	教務課 総務課	地域の小中学校との接続とその継続を図り、地域の教育力を向上させるために、本校のリーダーシップが期待されている。	【成果指標】 協議会や研究授業等に関わり、地域の教育力の向上に貢献できている。	地域の教育力の向上に関わる協議会、授業参観、研究授業等に参加した教員の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合は改善策を検討する。	教員へのアンケート
	* 挨拶運動 * 中高学習交流 * キャリア教育講演会 * 体験入学	総務課 教務課	地域全体の活力を盛り上げるために、本校生の地域貢献意識の向上が期待されている。	【満足度指標】 小中学校との生徒間交流事業や地域的行事に関わり、地域の盛り上げに貢献していると感じている。	小中高をこえた生徒間交流事業や地域的行事に関わり、自己の活動に有用感を感じている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は改善策を検討する。	本校生徒および相手校生徒・児童へのアンケート
	* 地域調べ学習と成果発表 * 朝市出店販売実習 * 地域ボランティア	総務課 第1学年 第2学年 総合学科 生徒会	本校生の地域への興味や関心は高いが、課題意識を持って主体的に関わり、理解を深めようとする積極性に欠けている。	【満足度指標】 課題意識を持って地域に関わり、地域への理解を深めている。	課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができたと考える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート

令和3年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
4. 多忙化改善を積極的に実現する学校 ①業務の平準化により一層の効率化を図る。 ②ワークライフバランスを考えた教員の意識改革を図る。 ③タイムマネジメントを生徒に意識させる学習指導、部活動指導の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> * 行事の精選・省力化 * 会議方法の工夫 * 定時退校日の設定 * 時間外勤務時間調査 * 校務分掌の見直し 	<p>教頭 総務課</p>	<p>昨年度はコロナ禍による2ヶ月間の休業もあり、部活動指導を主として時間外勤務時間が減少したが、若手を中心に部活動指導や教材研究に要する時間が多し。</p>	<p>【成果指標】 各種業務の精選や省力化等を意識し、教員が効率よく業務に取り組んでいる。</p>	<p>教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が一昨年度より</p> <p>A 10%以上減少した B 5%以上減少した C 3%以上減少した D 3%未満の減少であった</p>	<p>Dの場合は改善策を検討する。</p>	<p>教員へのアンケート</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * 校内研修の充実 	<p>教頭 若プロ担当</p>	<p>部活動指導のあと、不慣れな校務処理のため退校時刻が夜遅くなる若手教員が多く、OJTを中心とした校内研修を充実させる必要がある。</p>	<p>【成果指標】 年間を通して若プロなどの校内研修を計画・実施する。研修自体が多忙化につながらないよう十分留意する。</p>	<p>校内研修により、校務を効率よく進めることができるようになってきたと考える若手教員が</p> <p>A 90% B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>Dの場合は改善策を検討する。</p>	<p>若手教員へのアンケート</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * 生徒会、部活動、挨拶運動 * HRでの学習指導 * 部活動の計画づくり 	<p>教務課 生徒会課 生徒指導課</p>	<p>時間管理が不十分な生徒が少なくなく、様々な場面を通して、タイムマネジメントの大切さを伝えていく必要がある。</p>	<p>【成果指標】 タイムマネジメントを意識させ、時間を守る習慣が生徒に定着している。</p>	<p>生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して</p> <p>A 100日以上 B 90日以上 C 80日以上 D 80日未満</p>	<p>Dの場合は改善策を検討する。</p>	<p>毎朝のSH</p>